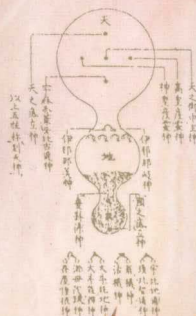


**[混淆し習合する
神と仏と人]を探究する!**



◎ 知の探究

シリーズ◎

日本宗教 のすべて

・ [混淆し習合する
神と仏と人]を探究する!

瓜生 中 渋谷申博 著

知の探究シリーズ

日本宗教のすべて

著 者

瓜生 中／渋谷申博

発行者

阿部林一郎

組 版

株式会社公栄社

印刷所

玉井美術印刷株式会社

製本所

大口製本印刷株式会社

発行所

株式
会社 日本文芸社

〒101 東京都千代田区神田神保町1-8

TEL.03-3294-8931〔販売〕,03-3294-8920〔編集〕

振替口座 東京00180-1-73081

*

落丁・乱丁本はおとりかえいたします。

Printed in Japan ISBN4-537-07805-7

110960815-1109681501

編集担当・石井

知の探究シリーズ

日本宗教のすべて

目次

「口絵」 描かれた日本の宗教——その情熱と宇宙観

「プロローグ」 神仏が共存する日本の宗教風土

「第一章」 神々の異空間——日本神道の変遷

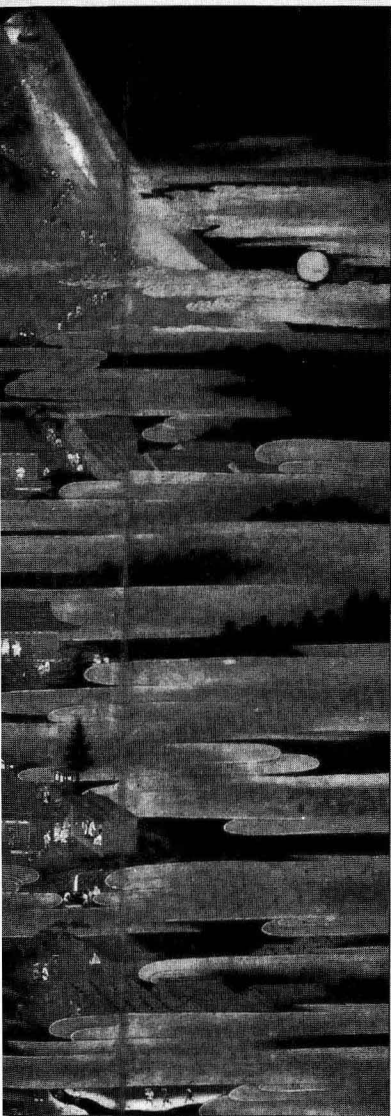
瓜生 中

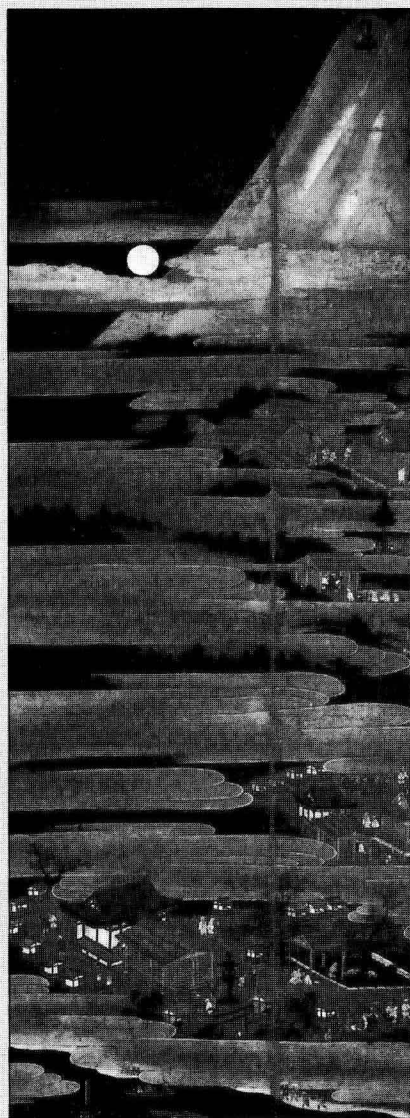
「Ⅰ」 神道の源流を探る

祖霊としての日本のカミ……………	38
自然と生活のなかから生まれた神々……………	40
神話に語られる神々の系譜……………	42
アマテラスの伊勢神宮とオオクニヌシの出雲大社……………	48
日本の神社の半数を占める稲荷社と八幡社の信仰……………	53

「Ⅱ」 体系化される神道

外来仏教と日本古来のカミとの共存……………	60
神道と外来思想としての儒教・道教……………	63
神仏習合の典型としての本地垂迹思想……………	65
中世神道の成立……………	69
国学の発展と近世神道……………	71
伊勢信仰の普及とおかげ参り……………	73





Ⅱ 国家神道への道

明治維新と神道の新展開……………	78
神官世襲の禁止と官幣社の制定……………	81
国家神道と宗教統制……………	84
敗戦と国家神道の解体……………	86
現代社会のなかの神道……………	88

【第2章】 仏たちの変容——日本仏教の展開

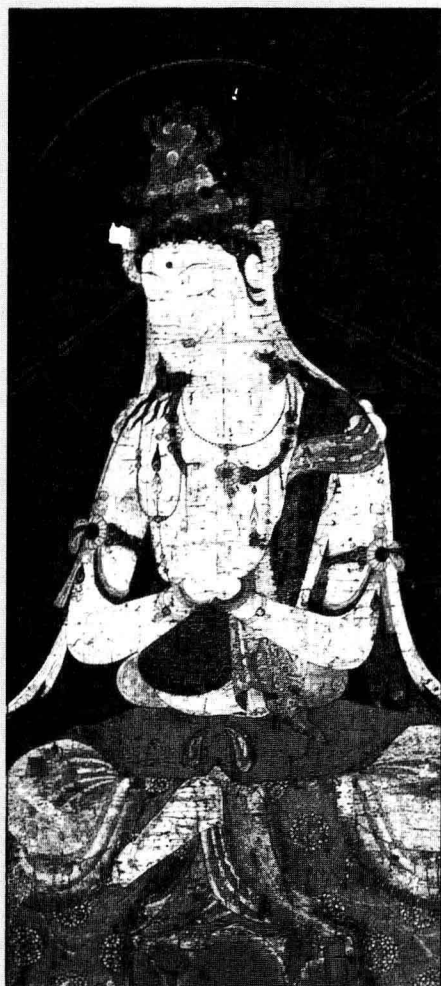
瓜生 中

Ⅰ 仏教の起源と伝播

釈迦の誕生と開悟……………	96
初転法輪と四十五年の布教生活……………	101
釈迦亡きあとの教団運営……………	103

Ⅱ 日本への仏教伝来

アジア各地への仏教の伝播……………	104
崇仏か排仏か——仏教の受容をめぐる戦い……………	118
聖徳太子と仏教……………	121



朝廷の統制と鎮護国家の仏教……………	124
仏教研究の“宗”派の誕生……………	127
東大寺と国分寺の造立……………	128
平安期を代表する最澄の仏教……………	131
日本密教を確立した空海の登場……………	134
Ⅲ 日本の仏教の成立	

鎌倉新仏教の特色……………	150
末法思想と浄土信仰の流行……………	153
法然の浄土思想（浄土宗）……………	156
親鸞の浄土信仰（浄土真宗）……………	158
一遍の浄土信仰（時宗）……………	161

禅の伝来―栄西と臨済宗……………	165
道元の禅（曹洞宗）……………	167
日蓮の思想（日蓮宗）……………	173
Ⅳ 時代に翻弄される仏教	

戦国代名の出現と宗教一揆……………	182
変容し大衆化する仏教……………	185
幕藩体制の成立と仏教の統制……………	187
キリシタン弾圧と壇家制度の功罪……………	189
儒学・国学の排仏論と廃仏毀釈……………	191
明治新仏教の試みと仏教の科学的研究……………	193
戦後社会と現代仏教の問題点……………	195

「第3章」 受難と栄光と——日本のキリスト教史

渋谷 申博

Ⅰ キリスト教の伝来と 日本教化

キリスト教古代伝来説の謎……………	204
「神の軍隊」イエズス会のザビエルの来日……………	205
ザビエルの布教活動とその成果……………	209
キリスト教の定着とキリシタン大名の出現……………	211
信長の保護政策と布教の基本方針……………	212

Ⅱ キリシタン禁教と かくれキリシタン

秀吉の禁教令と最初の殉教……………	220
江戸幕府の禁教により悪化する教勢……………	222
エスカレートするキリシタン弾圧の惨状……………	223
島原の乱は「宗教戦争」か？……………	224
島原の乱の推移と「天草四郎伝説」……………	225
迫害の嵐を乗り切ったかくれキリシタン……………	228

Ⅲ 近現代の キリスト教の展開

近世最後の殉教者を出した幕末維新の混乱期……………	232
カトリックの再伝とプロテスタントの伝来……………	234

社会事業とインテリ層への浸透……………	236
国家神道・ファシズムとの葛藤……………	238
戦後のキリスト教の問題課題……………	240



〔第4章〕増殖する神仏——日本の新宗教事情

渋谷 伸博

〔I〕新宗教への イントロダクション

「新宗教」と「新興宗教」と「カルト」の相違点……………	224
時代とともに変貌する「新宗教」の困難な定義……………	247

〔II〕幕末維新期の 新宗教事情

きわめて強大な最高神を説く『民衆の宗教』の登場……………	249
新宗教を発芽させた日本の宗教的土壌……………	251
日本の「宗教革命」としての天理教と金光教の成立……………	253
国家神道の成立と新宗教の「教派神道」……………	255

〔III〕ファシズムと 新宗教の関係

大本教とはんみちの非公認新宗教弾圧事件……………	258
治安維持法と宗教団体法による統制……………	261

〔IV〕信教の自由と 戦後の新宗教

宗教法人令と神々のラッシュアワー……………	263
新宗教とマスコミのセンセーショナルリズム……………	264



『宗教バブル』としての第二次宗教ブームと「新新宗教」…………… 268

「第5巻」日本宗教がわかる小事典

271

コラム

ニギミタマとアラミタマ	57	留学僧道元が出会った老料理長	171
日本人の信仰の原形 縄文・弥生のカミ	59	「禪問答」は「こんにやく問答」か	179
神道を解くキーワード ミソギとハライ	76	独特な山岳信仰で繁栄した「熊野詣」	180
本居宣長と平田篤胤	77	男女の性交によって悟りを得る立川流	181
ハレの日に神を拝む初詣の風習	91	救世主を待望するミロク信仰	199
鎮守の杜と日本人のカミ意識	93	軍事集団としての僧侶 僧兵	201
戦後日本の宗教風土を物語る靖国神社をめぐる問題	94	頓智一休の反骨精神	202
大乘仏教と小乗仏教①	106	ザビエルを招いた謎の日本人ヤジロウ	207
大乘仏教と小乗仏教②	109	キリスト渡来伝説と日本の宗教風土	215
大乘仏教と小乗仏教③	112	ネストリウス派キリスト教 景教伝来の謎	216
シルクロードと仏教	113	布教と侵略とーキリスト教日本伝来の真意	217
秘密仏教ー密教とは	115	天正遣欧少年使節の悲惨な末路	219
仏像の誕生	117	二人の「ころびバレン」の功績	230
「太子信仰」と「大師信仰」	141	中江藤樹はキリシタンだった？	231
宗教的自殺行為としての即身仏と補陀落渡海	143	ヘボンの残したもの	241
密教をめぐる最澄と空海のケンカ	145	吉原に戦いを挑んだ救世軍	242
役小角と修験道	147	古代・中世にもあった「新宗教」	246
日本独特の展開をみせる神仏習合思想	149	新宗教はキリシタンより発生した!?	257
死を乗り越えたかたやぶりの禅僧たち	169	マインド・コントロールと脱洗脳	269

■写真提供

国際フォト／毎日新聞社／共同通信社

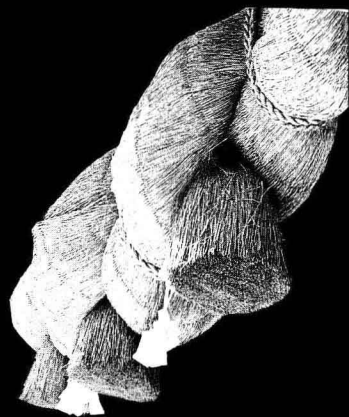
その他は写真キャプションに「蔵」として記す

■装幀＋本文デザイン

田中真一

知の探宝シリーズ

日本宗教のすべて



神仏が共存する 日本の宗教風土

◎◎◎◎◎

日本人は無宗教の民族だといわれている。たしかに「あなたの信仰している宗教は？」と問われて即座に明確にあるいは胸を張って答えられる日本人は少ないはずだ。

しかし、これは日本に宗教がないからではない。そのような国家は存在しないだろう。

むしろ、日本には宗教が溢れ返り、人生の節目・節目には宗教的儀式を執り行ない、

日常生活においても、宗教との関わりは決して少なくない。

にもかかわらず、日本が無宗教国家だといわれるのはなぜか？

日本の宗教的土壌を探る。

宗教は
絶対的な価値への
信仰とそれへの
実現にあるともいえる

■仏教では
釈迦の悟りの世界が
それにあたる
(ザールナート博物館蔵)



I. 日本人は無宗教か

◆ 宗教とは何か ― 宗教の定義

日本人が無宗教か否かを語る前に、まず宗教とは何か、つまり宗教の定義について触れておかねばならない。

ただし、宗教が学問的に研究されだしてからまだ日が浅く、百年ほどしかたっていない。それに加えて、複雑多岐にわたる宗教といわれる人間の営みを定義づけることには、非常な困難をともなう。そのため、現在までに確定説があるわけではないし、今後も宗教を特定することは難しいだろう。

しかし、これまでの研究の成果によってさまざまな定義が示されている。ここでは、それらのなかからいくつかのものを参考までに述べておこう。

第一に、宗教とは何かあるものに対する「信念」であると考えられる学者たちがいる。あるものとは、霊的存在、神や不死、超自然的な力や存在などであるという。これらのものに対する強い信念が、宗教を形成するというのである。

第二には、ある学者たちによれば、宗教の根源は超自然的な、あるいは神秘的な力能に対する畏怖の念、というような情緒的反応であるという。このような情緒的反応によって、宗教は自然発生的に出現し、受け継がれたとみるのである。

第三は、価値観を重視するものである。すなわち、宗教は絶対的な価値への信仰とその実現にあるという。宗教はある時代の、ある集団の大部分が受容した価値を強調し、保有するものであるとするのである。

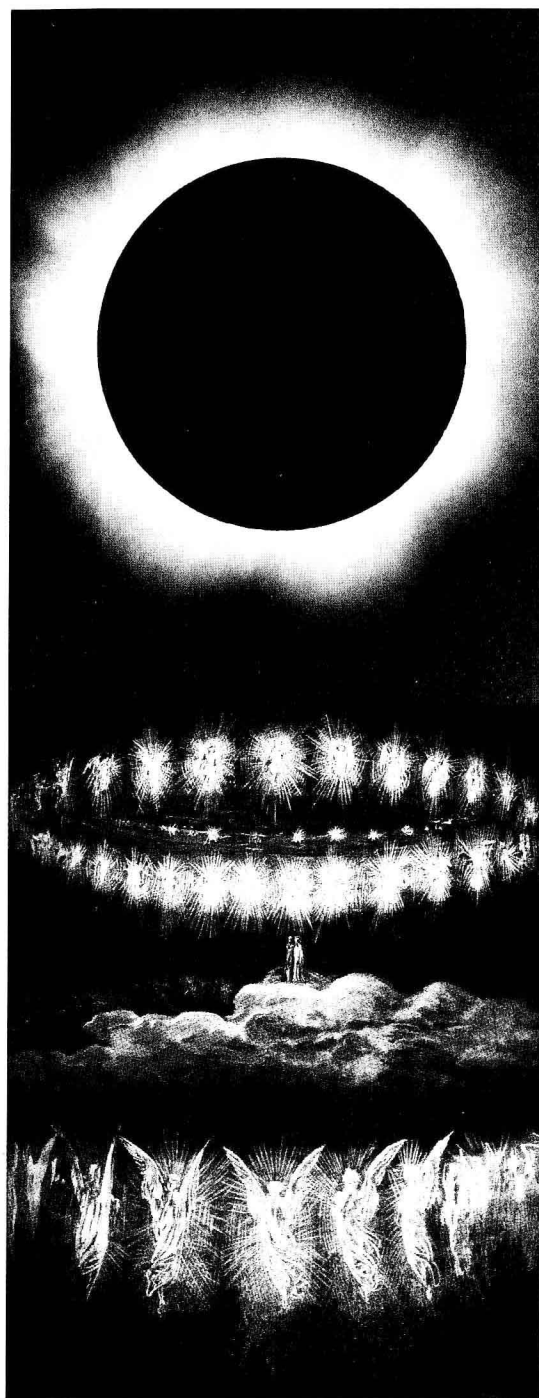
宗教という人間の営みは
超自然的・神秘的なものに
対する畏怖の念が
基調となっている

第一、第二の定義は、人間が超え難い超自然的・神秘的なものに対する畏怖の念が基調になっていることがわかる。また第三の定義にしても、絶対的な価値とは、釈迦の悟りの世界であり、キリスト教の神であり、イスラム教のアッラーの神であるということができようであろう。

ここにあげた宗教の定義は、いままでの研究の成果から、いくつかの代表的な説を類型化したものである。これらは、宗教の認識は信仰する人々の主観によって大きく異なるのであり、したがって、ここに示した定義が一般に認知されているわけではない。

しかし以上のことから、およそ宗教といわれる人間の営みは、超自然的な、あるいは神秘的なものに対する畏怖の念が基調となっていることがわかるであろう。

そして、ともあれ宗教という人間の営みは、人間の歴史のなかでつねに非常に重要な役割をはたし、影響を与えてきたことは歴史が示すとおりである。今日でも宗教を抜きにして世界の政治・



■ドレ画(ダンテ『神曲』天国篇の挿画)

文化をはじめとする、あらゆる現象は語ることができないのも事実である。

◆ 日本人が無宗教といわれる所以

宗教は非常に重要なものであり、多大な影響力をもつことは、古来、世界中の人々が認知するところであろう。宗教はそれを意識するとしないと関わらず、人間に不可欠な要素であるといっても過言ではないかもしれない。

ところが、日本人は無宗教であるといわれる。今日ではそのことが、国際社会における日本人の信頼性を損ねていることも事実である。日本人はなぜ無宗教なのだろうか。そしていつ頃からどのような原因で無宗教といわれるようになったのであろうか。

日本人が無宗教であるといわれるようになったのは、おそらく戦後しばらくしてからのことであろう。そしてその直接の原因は、戦時下の国家神道しんどうにあることはたしかである。

このことについては神道の章で詳述するが、第二次大戦中に神道は日本の「国教」となり、その信仰がすべての国民に強要されたことは周知のとおりである。

日本国民の多くは短期間の間に、神道という宗教によって、いわば洗脳されてしまったのである。

しかし、敗戦にともなう連合国総指令部（GHQ）主導の民主化政策により、戦中にたたき込まれた神道的価値観は覆された。大戦を通じて神道は軍国主義の温床になり、これに苦い経験をもつ人は多く、敗戦後の民主化のなかでは神道を忌避する風潮が生まれた。それに加えて、GHQが神道と宗教を同義に用いたことによって、神道の否定が宗教の否定につながってしまったことも事実である。

このような事情によって、敗戦後の日本人には宗教を否定する風潮が広まり、むしろ無宗教で



連合国総指令部の
“神道指令”により
国家神道は解体され
日本人の宗教的価値観は
大きく変化した

■ GHQが置かれていた
第一生命ビルの前を行進する連合国軍隊